

○議長（中本正人君）順番9、20番 辻本君。

〔20番（辻本 勉君）登壇〕

○20番（辻本 勉君）お昼までもう少しなので頑張ってください。できるだけ壇上での質問は簡潔にしたいと思います。

今回は、本市の観光PRについてと、過日の橋本駅前古佐田区内で起こりました火災、これに関連して質問いたしたいと思っております。

冒頭ですけれども、古佐田地区の火災におきまして被害を受けられた方々、特に、住むところがなくなかった方々に対しまして、心からお見舞いを申し上げたいと思います。

それでは、一般質問を行います。

まず、一つ目、橋本市の観光PRについてということで、本市は他市、特に伊都地方の高野山、九度山と比較しても、観光資源がお世辞にも多いとは言えません。幸いにも世界遺産をはじめとした歴史的遺産のたくさん存在する高野山、九度山が近くにあります。それらと連携し、伊都郡の広域的な観光PRが、これからのまちづくりに欠かすことができません。特に今年は、高野山の開創1200年、また来年は、NHK大河ドラマ「真田丸」で九度山町が全国に知れ渡ります。

そんな中で、本市の観光PRはどのように進んでいくのでしょうか。どのように進めようとしているのでしょうか。

紀の川祭、紀の川カップまつりが、紀の川橋本SUMMER BALLに変わりました。岡潔名誉市民をたたえ、数学WAVEを立ち上げましたが、「数学のまち橋本」というPRもしておりますが、それから、今は、同じ名誉市民である前畑秀子氏をたたえ、NHK

朝ドラ誘致に取り組むため実行委員会を立ち上げております。「ガンバレのまち橋本」をPRしています。今後、本市をPRし、多くの観光客を誘致するための基本的な考えをまず、お尋ねしたい。そして、その中で個別に、橋本市の三つのイベントと申しますか、事業についてただしていきたいと思っております。

大変、財政難ということで、先ほどからも出ておるんですけれども、財政難の中で、少ない観光資源でありますけれども、そのあるものをお金をかけないでPRしていくということが最も大事なかと、知恵を絞ってPRしていくということに全力を上げるべきではないのかなと思います。そういうことで基本的な考えをお尋ねいたします。

そして、まず一つ目。紀の川橋本SUMMER BALLについてであります。本年度3回実施をされました。今後長く継続するために、今ここで将来に向けて見直しをするときではないでしょうか。以前から一定の時期に見直しをするというお話もいただきましたので、それが今ではないのかなと思います。

この1番と2番につきましては、実行委員会形式でやっておりますので、なかなかこの場で突っ込んだ話と結論というのは出しづらいでありますけれども、この実行委員会の中で、こういう意見を反映、ぜひともしていただきたいと、思いであります。

SUMMER BALLにつきましても、問題点は幾つかあります。いろんな市民の方の声もいただいておりますけれども、特に開催日時、場所の問題であります。市民の祭りとして、より多くの市民の理解と賛同、そし

て協力を得る必要があろうかと思えます。私たち議会も、数年前に、紀の川祭とカップまりが一つになるということで、これからは市民の力で祭りをやっていこうということで、いろんなところに視察も行ってまいりました。現在、そのとおりになっているのかということについては、大変疑問を感じております。

しかしながら、これは委託、実行委員会形式ということで、とりわけ商工会議所や商工会の青年部の方をお願いをしておるんですけども、この取り組み、活動については、本当に大いに評価をしていきたいというところがありますけども、ぜひとも見直しをする時期ではないのかなと思っております。

続きまして、2番の前畑秀子朝ドラ誘致についてであります。このことにつきましては、昨日、5番議員の質問に対して詳細な答弁がありました。しかしながら、私のほうは若干視点を変えて質問していきたいなど、このように思っております。

とりわけ、実現可能性、活動の期限、これは昨日、5番議員が一定内緒の話やということでやっておられましたが、活動の期限、また、それまでのかかる費用、予算についてどう考えておるのか。それと、実現した場合の本市の経済効果といいますか、はっきり言いまして、15歳までしか前畑秀子さんがおられなかったということで、この朝ドラが実現しますと、中心はおそらく岐阜になるんじゃないかなと。橋本市にとって本当にどれだけのメリットがあるのかということ、私は若干疑問視いたしております。

そういうことで、以上についてお尋ねしていきたい。

3番ですけども、フルーツラインとくにぎ広場、そして、黒河道の問題。これは河南地域の問題なんですけども、黒河道については、12番議員、先ほど質問がされまして、前向きに

進んでおると、可能性が40%ということなんですけども、かなり期待が持てそうな雰囲気もあるんですけども、私は黒河道だけに捉われず、河南全体のPR、観光PRということと、本市の観光PR、全体的に、また、あわせて、広域的な観光について、フルーツラインとくにぎ広場、黒河道を大いに活用すべきではないのかなという観点から答弁をお願いしたい。

とりわけ、清水西畑線につきましては、数年前に大きな予算をとりまして、工事を完了しております。これは、河南農道の工事を進める段階で県のほうから指導がありまして、とりあえず、橋本市、市道の200mを先にやれという話がありまして、議会でも承認をいたしました。そういうことで、かなり大きな予算を執行しておりますので、ここをいかに活用するかというのは、本市にとっても大変重要なことではないのかなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

続きまして、2番のところですけども、過日の古佐田での火災を受けての質問となります。

中心市街地等の住宅密集地での火災発生について。これは古佐田駅前だけには限らず、高野口にも大変密集地があります。狭隘な道路がある密集地がありますので、密集地、橋本市全体的なことと考えてご答弁をいただきたいなど、このように考えております。

過日、古佐田区内、上本町商店街周辺住宅密集地において火災事故が発生し、6棟が全焼、8棟が一部類焼いたしました。発生場所は進入道路も狭くて、古い家屋が密集しており、大惨事になるところでありましたが、幸いにも、昼の1時の時間帯という明るい時間帯でありましたので、避難については速やかにしていただきましたので、けが人は出ませんでした。しかしながら、火事としては大き

なものでありました。出火場所の状況にもより、消火に手間どったようであります。狭隘な道路と住宅密集地での消火活動のあり方について、改めて考え直す必要があります。

市民の生命と財産を守ることは、行政の最重要課題であります。今回のことを教訓として、初期消火に全力を上げなければなりません。これにつきましては、昨日4番議員も質問をされておりましたが、そういうことで初期消火に全力を上げなければなりません。よって、以下の三点について質問していきたいと思っております。

今回の消火活動における問題点について。私も現場のほうへ行っておったんですけども、周辺の方、親族の方からいろいろなご意見を聞かせていただきました。今回の消火活動における問題点はあったのかどうか。体制の不備はあったのかどうか。その辺についてお尋ねしたい。

二つ目は、住宅密集地での火災発生時の活動マニュアル、これは消防署、消防団を含めまして、マニュアルはあるのでしょうか。日常のマニュアルに基づいた、マニュアルがあれば、そのマニュアルに基づいたシミュレーションがされておるのかどうか。密集地、特に古佐田でしたら、あの中で火災が発生したときには消防車はどこに配置をします。どこから水、消火栓か水源をどこに求めていくのかということが、きちっとシミュレーションされておるのか。マニュアルにあるのかどうか。そして、そのマニュアルに基づいてシミュレーションされておるのかどうか。徹底的に消防署員、隊員に叩き込まれておるのかどうか、それについてお尋ねしたい。

それと、三つ目でありますけれども、これは、今回の火災を教訓として、今後、このようなことはあってはいけないということで、今後の対策について、どのように消防署のほうは

考えておるのかということについてお尋ねいたしたいと思っております。

以上で壇上での質問を終わります。

○議長（中本正人君）この際、20番 辻本君の一般質問に対する答弁を保留して、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時52分 休憩）

（午後1時00分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

20番 辻本君の質問項目1、本市の観光PRに対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）本市の観光PRについてお答えします。

一つ目の紀の川橋本SUMMER BALLは、市民の祭りとして位置づけ、今年で3回目を迎えました。観光のPRの観点からも、影響力は大きく、市外、他府県からも大勢の方々が来られ、今回は3万3,000人の人でにぎわいました。今後もみんなが大いに楽しむ祭り、子どもたちの記憶に残る祭りとして、次の世代に受け継がれ市民の誇りとなるイベントに育てていきたいと考えています。

しかし、その一方で、開催のたびに会場へのアクセスの悪さ、迷惑駐車など市民の皆さまから多くのご意見をいただいております。これらの意見・課題について、実行委員会で検討をいただくことにより、少しずつ改善されているとの評価もいただいておりますが、引き続き市民の意見に耳を傾け、実行委員会の中で議論を重ねてまいります。

どうか紀の川橋本SUMMER BALLが、市民による市民の祭りとして今後も継続されることに、ご支援、ご協力いただきます

ようお願い申し上げます。

続いて、三つ目の質問についてですか、現在、本市も参画する橋本・伊都広域観光協議会では、橋本・伊都地方の観光振興のための取り組みとして、観光情報の発信、観光資源の開発と観光客誘致の事業を積極的に行っています。とりわけ、議員ご指摘の黒河道の世界遺産登録が実現すると、観光の側面からしても、これまでにないPR効果も期待できます。これを生かして高野山への来訪者を素通りさせることなく、フルーツラインからくにぎ広場を利用していただく導線整備もあわせて考えています。

その具体事業として昨年度発足した、はしもと河南エリア魅力アップ推進協議会では、くにぎ広場、製竿組合隠れ谷、恋野マッシュルームが実施主体となる恋野・学文路の恋学文（こいかむ）まつりや、エリアマップの作成、ホームページ作成等を本年度に計画しており、関係団体との横断的な連携による観光PRに努めてまいります。

○議長（中本正人君）教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）前畑秀子朝ドラ誘致についてお答えします。

このことは、5番議員のご質問でもお答えしたように、昨年、前畑秀子さんの生誕100年という節目の年を迎え、記念水泳大会・講演会などを開催したことを契機として盛り上がりを見せました朝ドラ誘致ですが、本市の名誉市民である前畑秀子さんの功績とともに、「ガンバレのまち橋本市」を全国にアピールできる絶好の機会と捉え、公募委員・推薦委員を交えた前畑秀子朝ドラ誘致実行委員会を立ち上げたところです。

その後、総勢37名の委員の皆さまには聞き取り調査や資料調査を行う情報部会、広報作成や署名活動を行う広報部会、NHKなどと

の折衝を行う外交部会、全体の各部会を統括し事業企画を行う統括部会にそれぞれ加わっていただき、意欲的に朝ドラ誘致に取り組んでいるところです。

また、予算措置の状況につきましては、現在500万円の委託料により実行委員会において活動を進めていますが、2020年に開催される東京オリンピックまでにこの大願が成就できるよう、市としてもより一層サポート体制を築いていくよう取り組んでまいります。

次に、黒河道の世界遺産登録については、12番議員にもお答えしたように、段階を踏み、国の史跡指定の決定を待っているところですが、今後も積極的に取り組んでいくことで、平成28年6月から7月の世界遺産委員会にて決議されることをめざしています。

○議長（中本正人君）20番 辻本君、再質問ありますか。

○20番（辻本 勉君）項目で答弁いただいておりますけれども、壇上でも申し上げたとおり、私としては、本市の観光PRの基本的なところをお伺いしたかったんですけれども、それは若干もれておったのかなという気はいたしますが、それでは、個別にいきたいと思います。

まず、一つ目の紀の川橋本SUMMERBALLでありますけれども、市民の祭りという位置づけということなんですが、本当に市民の祭りとなっているとお思いでしょうか。私も3回参加させていただいておりますけれども、実行委員会にも参加をしていますけれども、本当に市民の祭りとなっていないのではないのでしょうか。

商工会議所の青年部が中心と、商工会もあるんですけれども、商工会の青年部は若干、ちょっとずれているかなと、横へそれているかなという気もするんですけれども、商工会議所の青年部、大変一生懸命やっただいてお

るんですけども、市民の意向が反映しておるとは私は考えておりません。

私たちも市民の祭りにしようということで視察も行ってまいりました。高野口のカップまつりと紀の川祭を一つにして、橋本市民全体の祭りとしていこうということでやったわけでありますけれども、市民のものとはなっていないと思うんですよ。もう少し市民の意向を調査するといいますか、アンケート等をとってでも、市民の意向に沿った祭りにすべきだと思うんですけども、その辺、どうですか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）確かにこのSUMMER BALLについては3年目になったんですが、たくさんのご意見を行政のほうにもいただいております。壇上で議員もご質問いただいたときにありましたように、実行委員会でこれらについては取り組んでおりますので、行政に対して市民からいただいたご意見、改善すべき点については真摯に受けとめて、実行委員会、さらに事務局に報告させていただいて、その中で十分検討いただけるようにというふうに考えております。

アンケートにつきましては、来場者にアンケートをとるなどして、この3回、来年4回を迎えるにあたって、本当に現場でおられる市民の方、また、市外、県外の方がどういふふうに感じられておるか、どういふふうな祭りを望んでおるかという部分については、またアンケートをとっていけるように、これも実行委員会の事務局のほうに、行政のほうからお伝えしていきたいと思っております。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）実行委員会でのことなんですが、やはり市としても、市民の税金、1,000万円を突っ込んでおるでしょう、委託料としてね。それは、やはり市としても責任

を持って、あの祭りをどうしていくんないことをやっぱり議論してもらわんとね。実行委員会に全部お任せするというわけでもないでしょう。やっぱり貴重な税金、朝からも財政、きのうからもそうですけども、財政が厳しい、厳しいと言うておるわけでしょう。そんな中で1,000万円も出しておる。また、これ、ひょっとしたら補正で上がるかもわからんという話もちらっとあるんですけども、こういふときには、もっとやっぱり市として責任を持って議論して考えていかんとだめやと思うんです。

実際、いろんな意見があります。あその場でやっているのがいいというか、良いという評価というのにも出ているんです、地域によってはね。全体的にどうなんということを、やはりきちっとして行政は把握していかなあかんのちゃうかなと思うんですけども、特に、市民の方の意見といいますか、よくあるのは、やはり日時の問題、開催場所の問題、この辺が大きな問題ではないのかなと思います。

特に、市民の祭りになっていないというのは、市民協賛金が伸び悩んでおる。若干減ってきておることについても、やはり市民全体の祭りになっていないのではないかなと思うので、日時と場所の問題、これは警備上の問題もあるんですけども、私も交通警備部会に入っていますけども、警備はやはり旧のところのほうが安く上がるし、警察署の意見でも警備がやりやすいというご意見も出ておりました。そういうことで、その辺も含めて今後、実行委員会の中へ上げていってもらえるのかどうか。

特に、橋本駅前の活性化ということで、市長も言われておるんですけども、SUMMER BALLにおいては、橋本駅前で何ら宣伝もしていないでしょう。橋本駅周辺の人に聞いたら、今年、SUMMER BALLっ

てあるんですかとかね。全然PRしていないんですよ。そうでしょう。こんな橋本の中心の橋本駅でPRをやっていないような祭りが、ほんまに橋本市の市民の祭りと言えるんでしょうか。

それと、特に高野口町との合併、新市のときに、カップまつりをなくしましたね。こういう形でいくと、高野口町の方がどういう思いをされておるんかということについても、きちっとやっぱり把握していくということも大事ではないかなと思うんです。旧の橋本市内で、場所は変わりましたが、SUMMER BALLはやっていきますけども、高野口町のカップまつりはなくなりましたね。そんな中で、高野口町の方がどういう思いを持っておるんかということについても、十分調べる必要があると思うんですけども、その辺についてどうお考えでしょうか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）今、SUMMER BALLになっていったという経緯は、議員も本当にご存じやと思うんですが、市民も入って、それと、もともと紀の川祭りで中心になっておった団体、それと、カップまつりの事務局、そういった方にも入っていただいて、夏祭りをどうするかという検討委員会を市長の諮問機関として立ち上げました。

約2年かけて、この協議会ではいろいろ検討していったわけなんですけども、最終的に答申として、場所については、現在、SUMMER BALLをやっておる南馬場が一番ええんじゃないかという、これはもともとの紀の川祭りとカップまつりの中間になるという部分と、それと、比較的広い場所で、安全性も、向副に比べれば警備費は要らんじゃないかという、そういう答申の中では出ました。そういうことで場所については、決まっていたわけなんですけども、日時については、最初、

別な日時を答申としては挙げておったんですけども、実際、取り組んでいく商工会議所、商工会の青年部のほうから、8月15日前後のお盆にすると、非常に、まず自分たちが実行主体になっていきにくいという部分が一つと、それと、警備費を含めて、いろんな経費が盆価格になって非常に高くなる。そういったこともあって、中心になる今の実行委員会のほうから、8月の第1土曜日にしていただきたいという、そういう話がありました。

そういうところで、日時についても、今、決まってきたおわけなんですけども、確かに3年目を迎えて、いろんなご意見をいただいています。どれだけ高野口の方がこのSUMMER BALLにかかわるにあたって、いろんな思いがあるとか、駅前の方がどういふふうな思いで、南馬場へ夏祭りが行ってしまったことに関して、どういう気持ちを持たれておるか、そういう意見も確かに直接聞いております。こういったことも含めて、早期にまた来年度に向けての実行委員会を開きまして、また、その中で検討いただきたいと考えております。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）日時の問題についても、橋本からやはりよそへ出ていっている方がたくさんおられますね。その中で、盆に地元のふるさとへ帰ってきて祭りがある。お墓参りも行くという、そういうパターンがあるからでしょう。そやから、橋本市にやっぱり戻ってきてもらうという、足を入れていただくという、もともと市民の方が戻ってくると、そういう大事な点も考えていかんと、事業主体がちょっとやりにくい、実行委員会のメンバーがやりにくい、若干、盆料金が高くなるということなんですけども、今でも結構、経理かかってきておるでしょう。

実際の、まだ今年度の決算が上がっていま

せんけども、結構、かかっているという話でしょう。そうなってきたら、当初の答申とは若干、状況が変わっておるんじゃないかなど。実際、机上でいろいろ議論する、仮定をして、あそこでやった場合どうやという、その仮定の中で議論して答申が出てきておると思うんですが、実際、やってみたときに、いろんな問題があるということがあれば、これは、長く続けるのであれば、早い時期に見直しをするというのが僕は一番だと思うんです。

行政のほうも、一定の時期には見直しをするという話をしておりましたね。それが僕は今だと思うんですけども、今年の中で、今年中に、思い切った見直し、市民意向もとりながら、別に、もう間違いなしに、変えれとは私も言うてないんですよ。今のところのことも検証しながら、より市民の祭りとしていいものをつくっていくために、長くつくり続けていくために見直しをすると、議論をしていくということで、これは行政も中心的になってやっていただきたいと思うんですけども、その点はどうか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ご指摘いただいた内容について、大会長は市長でございますし、行政も主体性を持ってこの実行委員会に臨んでいきたいと思っております。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）あまりSUMMER BALLが人気が悪くなってきましたと、高野口地域のほうが、やはり不満というかそういうのも出てきて、カップを復活しようかというような話もあるかもわかりませんね。そうなってきたときに、やはり橋本市として、市の観光PRの一つの祭りとしてなり得るんかどうかということも考えていかんと、やはり合併後10年になりましたので、一体化を図っていかないかんとするときには、やはりきちっ

とした旧橋本市の市民、旧高野口町の町民の意向をきちっと押さえた中で、新しい市民の祭りをつくっていくのが本来の姿じゃなからうかと思いますが、その点について、もう一度お願いいたします。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）3回という一定の定着化に向けてのめどの年であったと思えますし、4回目、第2段階目の夏祭りの開催に入ってくると思えますので、来年度に向けて、できれば実行委員会全体で、都度都度協議をするのではなくして、専門部会的に一度立ち上げていただけるような申し出を実行委員会のほうにしまして、高野口の方、橋本の方、商工団体の方、そういった方、もちろん行政も入って、小人数の中で頻繁にそういう内容について検討していただく機会をこれからつくっていただけるように申し出したいと思えます。

以上です。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）よろしくお願ひしておきます。これについては、実行委員会のほうで十分議論をしていただいて、市民のための祭りになっていただくことをお願ひしておきたいと思えます。

続いて、2番の前畑秀子朝ドラ誘致についてでありますけども、先ほどご答弁いただいたのは、本年度、補正で500万円という委託料をつけておるんですが、私も議会のほうから実行委員という形で行かせていただいておりまして、外交部会に入っておるんですけども、人が足らん、予算が少ないという話が出てきております。これ、昨日の坂口議員のときに、坂口議員のほうからあったんですが、活動のタイムリミットが2017年の末か、2018年の初め頃ということだと思うんですが、そこまでに橋本市はどれだけのお金を使うんですか。

この誘致に関して、どれだけのお金を使おうとしておるんですか。それをご答弁ください。

○議長（中本正人君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）お答えをいたします。

5番議員の質問でもお答えをいたしましたように、6月8日に第1回の誘致委員会を開催させていただいて、その後、各部会をつくって、それぞれに活動をしていただいております。事務局長が非常に精力的に業務を行っていただいております。今、それぞれ第2巡目に入ってきたところであります。で、今後、どのくらいの予算がということですが、今はまず、今年度どういう形でというところの議論と、それから、各方面への協力依頼、先日も実行委員会に同行して、私も名古屋のほうで、和歌山県の名古屋観光センターですとか、水泳連盟ですとか、名古屋市にどないかコンタクトをとっていけないかというような協力依頼をしてきたところでありまして、まだ、今後の具体的な活動、予算、活動計画はできていない状況であります。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）今現在の活動は、私、わかっているんです、十分ね。そやけども、今年、補正で500万円をつけておるわけや。そうでしょう。また、部会のほうで、人が足らんとか、お金が要るとかという話は出てきておるわけや。そしたら、橋本市、この前畑秀子朝ドラ誘致にどれだけ投資するんや。そんなもんなしに、また活動が出てきたら、また予算をつけます。またこんな活動をしたと出てきたら、また予算をつけますと。そんなざるでやるわけにいかんでしょう。

財政が厳しい厳しいと言うておって、いろんなことに使われへんという中で、そうでしょう。朝ドラやったら、次の活動が上がってきたら、また予算をつけるんですか。最終的

に決定、誘致がペケになるか丸になるかわからんけども、その年まで、どれぐらいの予算で活動をしていくんやということをきちっと出していかんと。そうでしょう。言いなりになるんですか。

この辺のところははっきりしていかと、この誘致について、市長はきのうちゃんとした答弁をやっておられました。市のやるべきことはやっていくんやと。実行委員会がやっぱり中心やから、実行委員会でやることはやってもらわないかんのやと。そうでしょう。議員かってそうなんですよ。議員が1人や2人で走ってもしゃあない、これね。議員も実行委員会の中で、実行委員会として活動していく。そうでしょう。

そしたら、実行委員会中心でやっていくから、実行委員会から活動が上がってきたら予算を組んでいきますというような問題でもないでしょう。悪いんやけど、実行委員会もそういうことを上げていって、予算がつけへんのはどないするんですか。そうでしょう。当初から、誘致までは橋本市はこれぐらい投資して、全力で頑張るんやと、実行委員会に頑張ってもらうんやということになかったら、だめやと思うんですよ。これから補正予算とか上がってきても、我々が認められへんようになりますよ。その辺をもっときちっとやっていく考えはあるんでしょうか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）辻本議員の質問にお答えをします。

現在、人を増やすつもりもありませんし、これはあくまで実行委員会形式で進めている。人も1人つけていますので、その中で活動をしていただくというのが、大前提になってきます。これから、来年の予算という話ですけども、今年予算がどれぐらい



消化できるのかというのわかりませんし、今後、NHKの動向、あるいは、岐阜市、名古屋市の情報収集がどこまで進むのかということもあります。

例えば、岐阜市でそういう情報を収集していただいたら、それは連携するだけで済むので、そんなにお金の要る話ではありませんので、そういうのをしっかりと見きわめた上で、予算というのは考えていきたいと思えます。実行委員会からつけれと言うて、つけるものでもありませんし、本当に、ここへ行ってもらうという交通費とか、そういうものは出していく形になると思います。その予算については、その都度その都度、きちっとして判断をしながらやっていくということになります。

できるだけお金をかけずに、これは市民協働を進めるという一つの試金石みたいなものでありますので、ほんまに前畑秀子さんの顕彰を橋本市民みんなで作らしようという部分もありますので、予算については厳しく査定をしながら、無駄に使わないようにしてまいりたいと思っています。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）市長がそういうことで、きちっとやっていくということでございますので、信頼をしていきたいなど、このように思います。これ、市民にいろいろ前畑秀子さんの顕彰をしていっていただくと、みんなにわかっていただくということなんですが、そしたら、ちょっと私、疑問が二点ほどあるんです。

水泳でいきますと、金メダルとかでいきますと、古川勝さんも橋本市の名誉市民です。なおかつ、古川さんのご兄弟がまだ橋本市古佐田に住んでおられます。それをあっちへ置いておいて、中村智太郎君のときも、僕、市としていろいろ顕彰してあげてくださいよという話もさせてもらいました。水泳に関して

いうたら、この2人を横へ置いておるわけでしょう。それはちょっと気に入らんというか、何で前畑秀子さんだけなんやと。橋本市が、ほんまに橋本市のまちの中で、紀の川を使ったり、いろんなところで、水泳で立派になった人がおるということを全国に知らしめるのであれば、3人セットにPRしていったらええんと違いますか。それが橋本市を大きく全国に知らせていく方法やと僕は思うんです。それがちょっと腑に落ちん点があるんです、私はね。

それともう一点。数年前まで、木下市長のときは、岡潔顕彰をやりました。橋本市、数学のまち橋本ですね。そして、「岡潔博士ってだぁーれ？」という絵本までつくりました。そして、市民、まずは子どもたちから、学校で子どもたち、そして、その保護者等から、若い人から、岡潔をみんなに知ってもらおうということで盛り上がりをつくりました。そうでしょう。その方向へ進んでおった。

そしたら、今になったら、前畑秀子ガンバレのまち橋本ですわ。橋本市は数学のまち橋本をめざしておるのか、ガンバレのまち橋本なんかどっちなんよ。二兎を追うもの一兎をも得ずといわれておるんですよ、これは。ことわざにありますけども。そやから、もう岡潔やめて、前畑一本でやっていますんやと言うんやったら、それはいいんですけど。

その辺がもうひとつ橋本市の観光PRについて、ちょっと腑に落ちん点があるんです。そやから、もっと、NHKの朝ドラもいいんですよ。ええからそれで宣伝したらええけど、もっとその前に、市民に前畑秀子さんを顕彰してもらおう、みんなにね。それにあわせて、古川さんも顕彰してもらおう。そうでしょう。

これ、僕が家族やったら怒りますよ。兄弟がおって、古川さん、兄弟がおられますね、まだ。おって、前畑秀子ばかりやっている

やないか、橋本市。ほな、うちの兄弟どないなっとんねんと。同じオリンピックで金メダルをとっておるわけでしょう。女性で初というのはそれはありますよ。そやけども、橋本市の中で金メダルをとっておるんですよ、2人がね。同じように名誉市民になっとんです。そうでしょう。障がい者からいうたら、パラリンピックで中村君があれだけのことをやったんですよ。そうでしょう。そういうことをもっと、何で橋本市内の中でPRして盛り上げていったらへんのですか。NHKの朝ドラ、朝ドラにとらわっていますけども。どなたか答弁ください。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）辻本議員の質問にお答えします。

きのうの5番議員の質問の中でもお答えしましたように、やはり、そういう検証はしていかなあかんというふうには考えています。岡潔記念館につきましては、今、数学WAVEもあるんですけども、数学WAVEという団体はあるんですけども、ちょっと中身を見てみますと、職員がほとんどで、一般の人が本当に少ない、入っていないというような状況もあります。今現在、岡潔先生を顕彰するために考えておりますのは、松林荘を改修して岡潔記念館として使いまして、それから、いろんな数学という部分で進めていきたいなと思っています。

ただ、これにつきましては、国の補助事業を若干使いながらいきますので、今、杉村公園の中ということで考えています。ただ、丸尾池の改修が本年から3年間かかりまして、その中で事業を進めていくとなるんですけども、そういう岡潔先生の顕彰についても考えてまいりたいと今、考えています。

ただ、一度に三つというのは非常に難しい

部分もありますし、さらに予算づけということも考えていかなあきません。古川勝さんの金メダルというの、私どもも大変評価をしておりますので、今後、これから顕彰を進めていく中で考えていきたい。名誉市民3人の皆さんのそういう偉業を顕彰するような、将来的には場所も考えてまいりたいと思っております。ただ、考えておりました杉村公園の中の全体の事業が、371の開通の遅れ等で、後ろへ後ろへ来ていますので、そういうことも含めて、いずれは取り組んでまいりたいと思っておりますので、古川勝さんと前畑秀子さんの関係も、朝ドラの中に入れられたらいいのかなというふうな、そういうふうな。

もう一つ、2020年のオリンピックというのがありますので、金メダルをとった人の顕彰ドラマ、顕彰放送みたいなことがあるかもわからないという話も聞いておりますので、そういう方向で進めていきたいと思っております。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）すいません、次があるので、時間がないので、三番のところにつきましては、今見たらあまり先ほど言われたとおりの広域的な観光について、あまりPRしていないので、もっと積極的にやってください。せっかく高いお金をかけてやって、ええ道ができておるんやから、もっとやってください。それは、もうお願いしておきます。

一つ目はこれで終わります。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、中心市街地等の住宅密集地での火災発生に対する答弁を求めます。

消防長。

〔消防長（寺垣内 守君）登壇〕

○消防長（寺垣内 守君）辻本議員のご質問にお答えする前に、このたび8月3日に古佐田地区で発生した火災の概要について説明させていただきます。

火災は、8月3日13時30分頃、橋本市古佐田一丁目7番2号、稲葉織物工場から出火しました。焼損した棟数は、火元建物を含め全焼が6棟、部分焼が3棟、ぼやが5棟、合計14棟が焼損しました。火災による死傷者はなかったものの、本市ではこれまでにない大火でありました。火災は、18時10分に鎮火しました。

この火災の消防本部の出動状況ですが、13時48分に119番通報があり、同時刻の指令により、13時50分に橋本消防署・橋本北消防署から、消防車両及び救急車、合わせて4台、署員14名が第一出動しました。火災の規模が大きいため、13時56分に署員全員を招集し、消防車両合計12台、46名が出動し、消火活動を行いました。また、消防団については、合計11台、90名が出動し、地元橋本地区の第1分団が、深夜まで警戒にあたりました。以上が火災の概要です。

さて、ご質問の今回の消火活動における問題点についてお答えします。

火災現場は、橋本駅から南西に直線距離で約150mの地点に位置し、古くからの木造住宅が密集するとともに、周辺の道路は狭隘で消防車両が進入できない地域ということから、消火活動が困難な点もありました。火災防御のために最も重要なことは、延焼阻止など消火に必要な消防水利の確保が挙げられます。消防隊は、應其寺付近の消火栓と橋本駅西側の市道駅前寺脇線の消火栓にそれぞれポンプ車を部署して、消防ホースを延長しました。使用した消火栓は、配管の太さが150mm以上あり、十分な水量があると判断し選択したものです。しかし、火災建物までの距離は、それぞれ100mを超え、ホース延長に苦慮しましたが、火災建物周辺の道路状況と消火活動に有効な水利を考慮すると、最善の選択であったと考えています。

次に、住宅密集地での火災発生時の活動マニュアル及び日常マニュアルに基づいたシミュレーションについてお答えします。

橋本・古佐田地区については、應其寺を中心とした火災活動マニュアルに基づき、活動方針を立てています。マニュアルに基づいたシミュレーションは、現場活動を担う署員を中心に、密集地の道路や消防水利の状況について現地調査や訓練を実施しています。

続いて、今後の対策についてお答えします。

今回の火災を教訓として、改めて密集地の火災防御のシミュレーションを今後も重ねて実施し、特に現場経験の少ない若い隊員に対して重点的に実施していきます。

また、今回の火災では、地域住民が古佐田区に設置してあった消防ホースを、直接消火栓に結合し放水してもらえたため、付近建物への延焼防止につながるなど消火活動にご協力をいただきました。今後、地域住民への消火訓練にあたっては、それぞれの地域の実情や住民のニーズに合った訓練を実施できるよう努めてまいりたいと考えています。

○議長（中本正人君）20番 辻本君、再質問ありますか。

20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）消火の関係なんですけれども、消防車両が12台と46名、消防団がようけ行っていておるんですけども、そして、消防水利、應其寺近くの消火栓と橋本駅西側の消火栓からとっているんですけども、最初の消火活動というのは何時にスタートしたんですか。

それともう一点。近くに、上本町に消火栓があるんですけど、消火栓が2箇所あるんです。これ、1箇所は多分、地元の方が使ったのかなと思うんですけども、もう一箇所もあって、これを、その消火栓があることを知らなんだという、そういう話も若干聞こえてく

るんですよ。すぐにね。そやから、そういう消火栓のある場所、それぞれの消防団と、消防団はもちろんそうですし、消防署が確実に把握しておる。速やかにそちらへ行って、消火栓から消火するというのが基本やと思うんですけども、その辺も含めてご答弁、簡潔にお願いします。

○議長（中本正人君）消防長。

○消防長（寺垣内 守君）議員おただしの件ですけれども、出動車両が、放水開始については13時55分、到着については52分に到着しております。それで、55分、ホース延長が終わりまして放水開始となっております。

なお、上本町の消火栓ですけれども、狹隘のため、ポンプ車、3 tベースになっておりますので進入できません。よって、寺脇線、それと應其寺の南西部にある消火栓、150mmになるんですけども、そのほうに部署し、放水しております。なお、消防団の方についても、消火栓等については、地元消防団については把握していただいております。

以上です。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）消防水利なんですけれども、ああいうところについてはなかなか手間どる部分があるんですけども、紀の川からとるとか、橋本川からとるといような方法はとれなかったんでしょうか。

また、そういうところについては、ふだんから取れるかどうかの確認をしておるのかおらないのか、ご答弁をお願いします。

○議長（中本正人君）消防長。

○消防長（寺垣内 守君）議員おただしの紀の川からの取水についてなんですけれども、紀の川につきましては、とる場所、橋本川と紀陽銀行の南側という2箇所が想定されます。しかしながら、道路から紀の川までの高さが約10mぐらいありまして、消防車両について

は進入困難であると思います。

なお、自然水利、紀の川、橋本川から、もし消防車が取水する災害となれば、地震災害等で、消火栓、防火水槽が使用できなくなった場合が考えられます。

以上です。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）消火活動における問題点についてはあまりなかったというご判断をされておるんですが、これについてはもう少し、私も検証しながらやっていきたいと思いますが、2番のマニュアルの問題、シミュレーションとかやっておられるということなんですけれども、どこの場所を、年に何回、どういうふうにやっているのかということ、簡潔にご答弁いただけますか。

○議長（中本正人君）消防長。

○消防長（寺垣内 守君）議員おただしの密集地のシミュレーションなんですけれども、基本的に應其寺をメインにやっております。なお、図上訓練となりまして、地図上で、机の上での訓練になります。なお、密集地については防火訪問、それと、水利点検、水利、地水利を毎年ずっと見ていくんですけども、そのときに一応、だいたいの地理の把握ということでやっております。

以上です。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）大変大事な活動なので、机上でやっても、はっきり言って悪いですけど、シミュレーション、何ぼやっても役に立ちませんわ、実際のところ。それと、應其寺を中心にやっていると。そしたら、中心市街地でも、密集地でも、駅前線から東のほうはかなり密集している。こういうところはどないするんですかと。そういうところに火事があったら、消防車はどこそこへとめて、どこそこから水利をとって消火するんやというこ

とをきちっとやっておかんと、これ全然、絶対ものになりませんよ、今後。

これがええ教訓なので、これからのことなんすけども、それをきちっとやっていただくことは大変大事だと思いますので、常にそれをお願いしておきたい。消防署員も若くなっていますので経験者が少ない。火事もやっぱり少ないので、経験者が少ないので大変とまどうところもあるので、もうちょっとやっぱり現場のほうで、シミュレーションはきちっとやっていくということをお願いしたいなと思います。

それと、消火水利の問題なんですけども、消火栓、かなり細いですね。150mmですか、上本町のほうがね。で、上が200mmなんで、それで、駅前線が、聞くところによると70mmということなんですけども、高野口もそうなんですけども、駅前の密集したところについては、やはり太い管を入れておくということが大事だと思いますので、今後、橋本駅前線に2箇所あると思いますので、ここを200mmの管を入れるということについて、やはり消防としても努力をしていただきたいなと。市の財政の関係もあろうかと思うんですけども、橋本の真ん中、全てをフォローしようと思えば、県道の橋本線の下に大きなものを入れておくということが大事なので、その辺についてご答弁をいただけますか。これは、こっちな、予算が関係するので。

○議長（中本正人君）上下水道部長。

○上下水道部長（大倉一郎君）橋本の駅前から国道まで下りてくる県道ですけども、今現在、75mmの管が入っております。駅前からおりてくる道につきましても、市街地の開発というのは今、見直し中ということで聞かせていただいておりますけども、見直しとあわせまして、今後、入れかえていくというような形の市街地開発事務所のほうとも協議しな

がら進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（中本正人君）20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）当然、開発に絡んでくるんやけども、そしたら、それまではどないするんかということも、きちっと消防署のほうでやっていただかんと、またぞろ発生すれば、大変な問題になりますのでよろしく願いしておきたい。これは橋本駅前周辺の密集地だけの問題だけではないので、高野口でもいろんなところ、大野とかあの辺、かなり密集した、大きな消防車も入れないところがたくさんありますので、その辺をきちっとやっぱりやってもらわんと、この際、全面的に、市内全域を見直した中で、それぞれの消防団にも消火栓の場所をきちっと把握していただいて、消防署員はもちろんのことですけども、そういう教育をきちっとやってもらわんと、またぞろ同じような事態になりますので、52分から放水した割りには、大変な火災になってしまったのではないかなと思いますね。

実際、52分に着いて、55分から放水したというのであれば、もう少しどないかなれへんだんかなという気持ちは、私もします。そういうことで、今後、きちっとやっていただきたいと思います。そういうことで、消防署内のほうで、本当に常に体にしみ込ませておくというか、こういうときには、ここで火災が発生したら、こういうふうに行動するんやということを、常に体でしみ込ませておく。机上ではなかなかできませんので、それぞれの場所で、それなりの訓練といいますか、それをやっていただいて、今回のようなことが起こらないように、十分注意をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

もう少しあるので、一番大事なのが初期消火やと思うんです。きのうも4番議員があっ

たんですけども、初期消火というのは、当然、近くの消火栓からホースを直結して、地域住民の方にお願ひせなあかんのですね。そうでしょう。消防が行くまでに、もちろん消火器があつて、それで初期消火をすればいいんですけども、それができなかつたら、今度は地域の方が、直接消火栓からとつて消火すると

ということがまず大事やと思うので、その辺についても、やはり、自治会を通じて、きちつと地元消防団と話をしながら対応できるように、十分、消防署の指導のほうをお願ひしておきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○議長（中本正人君）20番 辻本君の一般質問は終わりました。